

気象・水文予測情報の実践的活用に関する研究会

日時：平成 23 年 11 月 2 日（水） 13:30～17:00

場所：京都大学防災研究所 連携研究棟 大セミナー室（3 階 301）

主催：京都大学防災研究所 特定研究集会 23C-04

1. 開催趣旨

近年、降雨観測予測の技術や流域圏統合モデルによる温暖化影響予測などの技術開発が進んでいますが、現場の実践的な運用管理に活かすためには、利用者が求める情報を提供する必要があります。本研究会では、流域圏統合モデルの活用に向けて、技術開発者と利用者からの話題提供と両者のパネラーによる総合討論により、気象・水文予測情報の革新的な利用に向けて、技術と現場のニーズのギャップを埋めることを目的とします。

2. プログラム

13:30 開会

司会 佐藤嘉展（京大防災研 水資源環境研究センター 特定准教授）

13:35 気象情報の橋渡しの必要性－目先の予測から温暖化予測まで－

鈴木 靖（京大防災研 水資源環境研究センター 特定教授）

14:00 気象庁の降雨予測について

弟子丸 卓也（気象庁 予報部業務課 気象防災情報調整官）

14:25 河川情報に関する新たな取り組み

五道 仁実（国交省 水管理・国土保全局 河川情報企画室長）

14:50 台風 18 号出水における名張川上流 3 ダムの洪水調節操作

神矢 弘（水資源機構 川上ダム建設所 所長）

15:15 民間気象会社の役割～開発者と利用者をいかに結びつけるか～

辻本 浩史（日本気象協会 防災事業部部長）

15:40 休憩

16:00 パネルディスカッション

パネラー 角哲也（京大防災研教授）・安田成夫（京大防災研特定教授）・

弟子丸卓也・五道仁実・神矢弘・辻本浩史

コーディネーター 鈴木靖

17:00 閉会

17:30 交流会